



I . “こうべ”の市民福祉総合計画2015の特徴

- 厳しい現状認識の中、神戸が築いてきた多くの強みを結集し、多様化・複合化する市民福祉の課題を克服するとともに、新たな芽を育み、将来への展望を開いていこうとしています。
- 計画全般にわたり、人と人とのつながりを重視する施策を重点的に実施していこうとしています。
- 全ての市民が参画して人に共感し、協働して、支え合いの地域福祉を推進していき、ソーシャル・インクルージョンの実現をめざしています。
- 地域(近隣、小・中学校、区・市全域など)を重層化し、多様な地域の資源(人、モノ、仕組み)が分野を越えて連携することにより、隙間を防ぎ、切れ目のないきめ細かい支援をめざしています。

神戸の「強み」とは

小学校区を単位とした地域福祉センターなど、日常生活において地域の拠点となる福祉施設などの整備(面的配置)、分野ごとの多様化するサービスの整備(量的整備)、早くからの市民の組織的活動をはじめとする豊富な人材による活発な地域福祉活動、震災時の市民のつながり・支え合いによる克服の経験、NPOなどの新たな市民活動の根づきなど様々であり、これらの「強み」である多様な地域資源が連携して課題に関わることにより、制度の隙間を埋めるきめ細かい支援を行っていきます。

II . 計画の基本理念

～人がつながる、安心・支え合いの市民福祉～

市民一人ひとりが、人と人とのつながりや互いの尊厳を保ちながら、安心で安全な生活を送ることができるよう、多様な主体が、地域を軸として、相互に連携し協働して、深刻化・複合化している市民福祉の課題に的確に対応できるように努めます。ともに支え合う地域福祉を維持・(再)構築することにより、高齢者・障がい者・子育て世帯をはじめとした、あらゆる人を重層的に包容する社会の実現(ソーシャル・インクルージョン)をめざします。

用語解説

- 協働と参画・・・・・・ 市民・事業者・行政がそれぞれに果たすべき責任と役割を自覚し、協力しあいながら課題解決などに取り組むこと。
- ソーシャル・インクルージョン・ 社会から排除され、孤立している人々に対して、権利を保護し、差異や多様性を認め合いながら、地域全体で支え合っていこうとする考え方。
- 多様な主体・・・・・・ 市民、民生委員・児童委員、地域住民組織などの団体、ボランティアグループ、NPO、事業者・企業、社会福祉協議会、行政など。